

甲南大学 甲南大学大学院

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp>

◎岡本キャンパス

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL. (078) 431-4341 (大代表)

◎西宮キャンパス

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33
TEL. (0798) 63-5741

◎ポートアイランドキャンパス

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
TEL. (078) 303-1457

甲南高等学校・中学校

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3
TEL. (0797) 31-0551 (代表)
ホームページ <http://www.konan.ed.jp>

甲南大学ネットワークキャンパス東京

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー10F

TEL. (03) 6266-9520

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp/tokyo/>

ウェブサイトによる 「教育情報」の公開について

本学では、平成23年4月1日に施行された「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」に伴い、ウェブサイトにて積極的に「教育情報」を公開しています。甲南大学ホームページの「公開情報」をご覧ください。

発行 平成27年6月

この冊子に関するお問い合わせは、
下記までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

T E L. (078)435-2608

F A X. (078)435-2548

e-mail sohmu@adm.konan-u.ac.jp

個性を力へ。

KONAN

平成26年度 事業報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで





甲南学園のあゆみ

個性尊重の理念を掲げて開学。90年余にわたり、その独自の教育を深め、確立してきました。

平生鈺三郎は、慶応2(1866)年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建するなど実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立など社会事業にも深く関わり、政治においては、広田内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。



学園創立者
平生 鈺三郎

- 1918 財団法人甲南学園
私立甲南中学校設立認可
- 1919 私立甲南中学校開校
- 1923 7年制甲南高等学校開校
- 1948 新制甲南高等学校に移行
- 1951 甲南大学設置認可、甲南大学開学、
文理学部設置
- 1952 経済学部増設
- 1957 文理学部を文学部と理学部に分離
- 1960 法学部・経営学部増設
- 1963 甲南高等学校・中学校が岡本から芦屋市に移転
- 1964 大学院人文科学研究科、自然科学研究科設置
- 1965 大学院社会科学研究科増設
- 1991 トゥレーヌ甲南学園(フランス甲南学園トゥレーヌに校名変更)
高等部・中等部を開校
- 2001 理学部を理工学部名称変更
- 2002 経済学部・経営学部EBA総合コースを開設(2013年廃止)
- 2003 先端生命工学研究所(FIBER)設置
- 2004 大学院法学研究科(法科大学院)増設
- 2006 大学院ビジネス研究科
(会計大学院)増設
- 2008 知能情報学部増設
- 2009 マネジメント創造学部増設
(西宮キャンパス新設)
先端生命工学研究所移設・フロンティアサイエンス学部・同研究科増設
(ポートアイランドキャンパス新設)
フランス甲南学園トゥレーヌ
中等部閉校
- 2013 フランス甲南学園トゥレーヌ
高等部閉校

C O N T E N T S

学校法人甲南学園／平成26年度事業報告書

はじめに 1

- はじめに
- 甲南学園のあゆみ
- 甲南学園の構成

平成26年度の主な取組 3

I 事業の概要 6

- 大学・大学院関係 6
- 高等学校・中学校関係 11
- 法人関係 12

II 財務の概要 13

- 平成26年度決算の概要
- 資金収支決算の概要
- 平成24年度～26年度決算の推移
- 資金収支計算書(学園総括)
- 消費収支計算書(学園総括)
- 消費収支決算の概要
- 消費収支決算・構成比率
- 消費収支決算(部門別内訳)・構成比率
- 主な施設・設備の整備状況(学園全体)
- 貸借対照表
- 消費収支決算の推移(学園総括)
- 財務状況の推移(学園総括)
- 財務比率の推移(学園総括)

III 法人の概要 21

- 名称
- 法人設立の年月日
- 設置学校
- 役員
- 土地と建物

大学・大学院・高等学校・ 中学校基本データ

- 学位授与
- 留学者数
- 入学試験状況
- 大学(学部学生)の就職状況
- 学生・生徒数
- 卒業生累計数
- 専任教職員数
- 事務組織図

甲南学園の構成

設置する学校・学部・大学院等(平成27年3月31日現在)

甲南大学・大学院

学部・ 学科	文学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本語日本文学科 ■ 社会学科 ■ 歴史文化学科 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 英語英米文学科 ■ 人間科学科
	理工学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物理学科 ■ 機能分子化学科 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生物学科
経済学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経済学科 		
法学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 法学科 		
経営学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経営学科 		
知能情報学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 知能情報学科 		
マネジメント創造学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ マネジメント創造学科 		
フロンティアサイエンス学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生命化学科 		
大学院	人文科学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 修士課程 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 博士後期課程 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻
	自然科学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物理学専攻 ■ 化学専攻 ■ 生物学専攻 ■ 知能情報学専攻 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物理学専攻 ■ 生命・機能科学専攻 ■ 知能情報学専攻
社会科学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経済学専攻 ■ 経営学専攻 ■ 会計専門職専攻 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経営学専攻 	
フロンティアサイエンス研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生命化学専攻 		

専門職 大学院	法学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 法務専攻(法科大学院)
------------	-------	---

センター 研究所 図書館	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際言語文化センター ■ キャリアセンター ■ 先端生命工学研究所 ■ 国際交流センター ■ フロンティア研究推進機構 ■ ビジネス・イノベーション研究所 ■ スポーツ・健康科学教育センター ■ 図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報教育研究センター ■ カウンセリングセンター ■ 総合研究所 ■ 広域副専攻センター ■ 教職教育センター ■ サイバーライブラリ ■ 人間科学研究所
--------------------	--	---

甲南高等学校・中学校



学校法人甲南学園
理事長 **吉沢 英成**

甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園は、大正8(1919)年の旧制甲南中学校の開設にさかのぼります。甲南を支える大きな精神的支柱である創立者の平生鈺三郎先生は、

本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル有志ノ者共ガ集マツテ、
知育偏重ノ弊ヲ避ケ、「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、
「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、
知的教育ヲ施サン」トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

高等学校第1回卒業式／大正15(1926)年

と述べています。本学園は、今後も、この気概と品格ある平生精神をもとに、教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成することを目指しています。

はじめに

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本学園の平成26年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

国際的にも、国内でも政治・経済状況が極めて不安定に推移し、社会・文化の基盤は非常に脆弱になってきているなか、甲南学園の教育研究はますますその真価を問われています。加速する少子化にも曝され、一層厳しい試練に立ち向かわなければならず、中学・高等学校にあっても、大学にあっても、質の向上を目指し重点化も含めて改革への取組に着手し、「人物教育の率先」を具現化する教育、高い水準の研究成果を国際的に問うべく教育研究環境の整備・向上に努めてまいりました。また、財政健全化のためのガイドラインを遵守し、財務体質を抜本的に革め、財務基盤の健全化に取り組んできたことにより、安定した学園財政基盤の構築に一定の環境を整えることができています。

平成27年度は、教育力の向上を図るために学生実員を調整した完成年度であるとともに、都市圏の大学については、抑制を図る方向でより厳しい定員管理が求められる中、引き続き帰属収入が減少することが予想され、従前にも増して様々な工夫を迫られる年度となります。また、学費のあり方も検討すべき年度となります。

このような状況の中、学園創立100周年(平成31年)に向け、甲南新世紀(平成32年以降)が揺るぎなく教育研究の精華をもたらし続けられるよう、「人物教育率先・教育力の甲南」「集中・重点化された戦略的研究力の甲南」を推進することを中心に、積極的な取組とさらなる発展の実現を目指してまいります。

皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。



平成26年度の主な取組

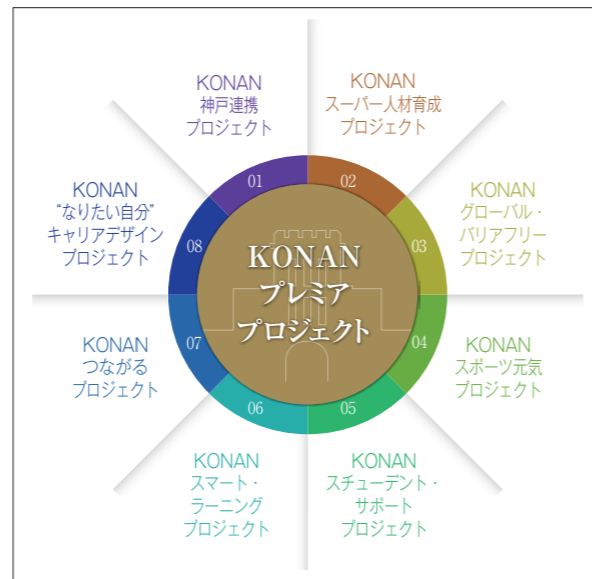
01 甲南大学の教育改革

平成26年8月1日、長坂悦敬経営学部教授が第17代学長に就任し、「人物教育率先・教育力の甲南」の方針を引き継ぎ、甲南新世紀に向けて、甲南らしさに根差す「圧倒的な教育力」の実現を目指した教学新機軸の構築に取り組むことを目標に掲げました。

その初年度における取組として、学校教育法改正および研究活動不正防止・公的研究費不正使用防止に関するガイドライン改正に対応した大学の組織および運営管理体制の整備を行う一方で、教育改革アクションプランの策定・推進に取り組みました。

教育改革アクションプランについては、まず、建学の理念や教育方針に基づく学生・教職員の行動規範として「KONAN U. WAY~世界に通じる人物をめざして」を定めるとともに、教職員から提案された「甲南らしさ」を表す220のキーワードの中から、学生・教職員の投票によって無限の可能性という意味を込めた「KONAN INFINITY (インフィニティ)」を選定し、これをデザインしたコミュニケーション・マークを定めました。これらは、学生・教職員が「甲南らしさ」を共有する指針や象徴として浸透・活用を図っていきます。

また、各学部・センター等の特色ある取組・計画を実践・可視化するとともに、これらを組織横断的に融合し、本学の新たな魅力を創出するため、8つのメインプロジェクトから成る「KONANプレミアプロジェクト」を策定しました。今年度においては、次年度からの本格的展開に備えて一部先行実施するとともに、その環境整備として、グローバルゾーン整備に向けた国際交流センターの移転改修、中規模アクティブラーニング教室の整備を行いました。さらに、共通教育の段階的改革への着手や、教育学習支援センターの整備等、教育改革の体制整備を推進しました。これらのうち主要な取組については、甲南新世紀に向けた教学新機軸の核となる事業として、その充実・発展を目指します。



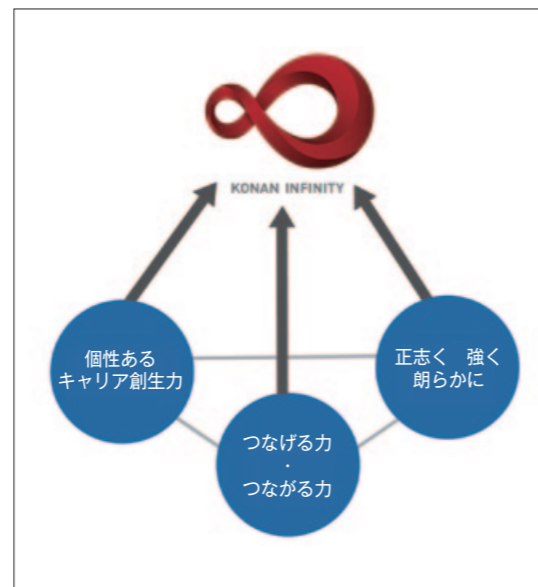
「KONANプレミアプロジェクト」とは

特色ある取組みを可視化し、これらを組織横断的に融合することで本学の新たな魅力を創出するために編成・展開していくチャレンジプロジェクト。各学部・センターからの提案に基づき、多数の部門にまたがる44のサブプロジェクトを「神戸連携」「スーパー人材育成」「グローバル・バリアフリー」「スポーツ元気」「スチューデント・サポート」「スマート・ラーニング」「つながる」「『なりたい自分』キャリアデザイン」の8つのプロジェクトに編成して推進します。

「KONAN U. WAY」とは

「甲南らしさ」を実現するため、学生・教職員をはじめ甲南大学にかかわる全員が心に留めるべき行動規範。3つの行動規範をもとに、日々の活動の中で「甲南らしさ」を醸成していきます。

- 個性あるキャリア創生力を涵養する
- つなげる力、つながる力を育む
- 正志(ただし)く 強く 朗らかに



02 高等学校・中学校

平成26年度中学1年生より「フロントランナーコース」「アドバンスコース」からなる新コースがスタートしました。「フロントランナーコース」では、自然科学への興味を喚起する「プレラボ」を実施。平成27年度からは「サイエンス・ラボ」「グローバル・ラボ」を開始し、科学的思考力を養うとともに、共生・公正・平和といった価値観を身につけながら国際社会で生き抜く感性

を育みます。また、「アドバンスコース」では、“教室から社会へ、教室から世界へ”をコンセプトに、国際教養と広い視野、そしてコミュニケーション力を有したグローバル人材を育成します。生徒たちは好奇心や学びの意欲が高く、熱心に取り組んでいます。

また、学園創立90周年から100周年へ向けての記念事業として位置づけられた、高等学校・中学校再開発事業のうち、新甲友会館（食堂・柔道場・剣道場・文化部室・宿泊室）が12月に竣工し、生徒たちを“よき仲間たち”としてつなぐ要所となる「学園創立90~100周年記念 甲友会館」愛称「ル・カスク」(Le Casque: フランス語で甲を意味する)と命名されました。



柔道場



剣道場



正面



甲友ラウンジ

03 戦略事業の展開

(1) 先端生命工学研究所(FIBER)の研究推進

第I期プロジェクトの研究活動の経験と実績をさらに発展させるべく、第II期研究プロジェクト(平成26年度~平成35年度)を始動させました。また、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に対して、新規研究プロジェクト「核酸の非標準構造を標的とした細胞応答の化学的制御技術の構築と先制核酸医工学への展開」を申請、採択を受け、国内外との共同研究が始まりました。平成26年度の研究成果は、独国化学誌 Angewandte Chemie International Edition誌や英国核酸研究誌Nucleic Acids Research誌をはじめとする世界的に著名な学術雑誌に掲載されました。

社会貢献活動として、先進的研究により得られた研究成果を積極的に発信する一般公開の講演会として「FIBER 未来大学 (FIBER Future College)」を新たなシリーズとして主催し、13回の講演会を行いました。上記講演会のシリーズ1回目として、第II期研究プロジェクトのスタートを記念し、「FIBER未来大学in KOBE: 2020年近未来への旅」と題した講演会を、元 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会・CEOの水野正人氏、宇宙航空研究開発機構(JAXA)理事の加藤善一氏、理化学研究所計算科学研究機構長の平尾公彦氏および杉本直己所長を講師として、学生・一般・地域社会等向けに岡本キャンパスで開催しました。

教育面における社会貢献活動として、独立行政法人日本学術振興会(JSPS)支援の「ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI」の採択を平成26年度も受け(8年連続採択)、科学研究費補助金による研究成果の社会還元を目的としたイベントを、中学生を対象に実施しました。

新聞報道では、FIBERの研究成果が独国化学誌ChemMedChem誌の中表紙を飾り、10月2日付け神戸新聞夕刊に掲載されました。また、前述の「ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI」のプログラムが9月26日付け神戸新聞朝刊に掲載されました。



ひらめき☆ときめきサイエンス

Highlight 2014

(2)法科大学院の展開

平成26年度より第3期プロジェクト（5年プラス クッション期間1年）が始動しました。平成26年の司法試験では7名が合格し、9回の試験の合格者累計は103名となりました。法曹志望者の多くが予備試験を目指して法科大学院を受験しない状況の中、昼夜開講や秋入学、弁護士の職域拡大など特徴ある取組を充実させて、社会人が学び、企業法務を支える弁護士が育つように努力を続けます。



ビジネスの第一線で活躍する弁護士による「企業法務論」

04 特色ある学部を取組や研究成果のメディア報道

<経済学部「プロジェクトゼミ」>

本学卒業生であるサントリーホールディングス株式会社副会長の鳥井信吾氏、モロゾフ株式会社社長の山口信二氏が講師を務め、それら講師によって提示された課題についてグループワークを重ね、講師と一般の参加者を前に公開プレゼンテーションを行う「プロジェクトゼミ」の取組が、数多くの新聞に掲載されました。



プロジェクトゼミ

<経営学部「ビジネス・リーダー・養成プログラム(BLプログラム)」の「ビジネス・プロフェッション・コース(BPコース)」>

雑誌『カレッジマネジメント』（リクルート）及び『私学経営』（私学経営研究会）において、3ヶ月にわたる長期インターンシップをカリキュラムに位置づけている事例として、本学経営学部の取組が「経営職能型長期インターンシップ」として掲載されました。



ビジネス・リーダー養成プログラム 研究報告会

<知能情報学部のさまざまなロボット>

インターネットから取り込んだニュースをネタに、即興漫才を繰り広げる知能情報学部が開発した漫才ロボットが、数回にわたりテレビ出演を果たし、新聞等にもたびたび掲載されました。また、ラジオ体操採点システム、来場者カウンタ、アンドロイド、障害物検知装置、パンチルト雲台、形状認識装置、移動ロボット等を、グランフロント大阪ナレッジキャピタルで展示・実演しました。



漫才ロボット

「ナレッジイノベーションアワード」
(グランフロント大阪)

I 事業の概要

大学・大学院関係

1 教育

(1)共通教育の段階的改革の推進

「広域副専攻センター」を「共通教育センター」に名称変更し、「広域副専攻科目」を「基礎共通科目」とすることを検討、平成27年度実施を決定。また、特設科目として「特設科目Ⅳ（現代ビジネス論）」「特設科目Ⅴ（情報セキュリティ）」「特設科目Ⅵ（社会と法）」「特設科目Ⅶ（社会とファイナンス）」の4科目を新設。今後、教育改革会議に設けられた共通教育作業部会において共通教育の段階的改革についての検討を開始。

(2)教育学習支援センターの設置

これまで実施してきた基礎的な情報教育に加え、プロジェクト型学習をはじめとするアクティブラーニング等の先進的な授業を受ける学生の学びに対する支援を行うため「情報教育研究センター」を「教育学習支援センター」に改組することを検討、平成27年度設置を決定。

(3)主体的学びの喚起・促進、学修支援体制の充実

キャンパスの内外で学生が生き生きと主体的に学べるよう、先進的な教育手法を積極的に導入・開発。サイバーライブラリ内に設けた共同学修エリアを活用し、チーム学修活動、グループ学修活動、アカデミックライティング指導を実践的に試行。また教務システムによる学修支援の充実を目的に、早期の履修計画を可能とする成績照会機能を追加。



アカデミックライティング指導

(4)FD活動等教育改革への取組と教育力強化の支援・促進

GPA制度の見直し、カリキュラムマップ／ツリーの作成、授業改善アンケートの活用、シラバスチェックを継続実施。昨年度に引き続きアクティブラーニングを推進、講師招へいプログラム、FD講演会・ワークショップを実施。また、経済学部では、授業改善アンケートを活用したベストレクチャーを決定する取組を実施。

(5)国際社会でグローバルに活躍できる能力を身につけた学生の輩出

国際交流の体験、短期の留学体験、長期留学の実現をそれぞれ「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」として段階づけた各種留学制度のもと、様々なプログラムを実施。

本学のグローバル教育拠点「グローバ



異文化交流運動会

ルゾーン」の整備に向け、国際言語文化センターや言語教育施設のある2・6号館エリア（2号館1階）に国際交流センター及び留学生との交流スペース「あじさいのーむ」を移転。

(6)キャリア教育の推進

学部の専門教育科目の中にキャリア科目を位置づけ、学部で学ぶ専門や専攻と接続させたキャリア教育を展開。キャリア科目意見交換会を定例実施して担当者間の連携強化を図り、体系的なキャリア教育プログラムを推進。

(7)教員養成の理念に則した教職課程の運営と全学的な教職指導の体制構築

教育職員養成課程カリキュラム委員会の機能を強化。「教職実践演習」を充実、「甲南大学における教員養成の理念」を策定、センター教員と教職指導員を中心とした教科別指導体制の整備、外部機関による講座と模擬試験を実施。

(8)スポーツ教育力の強化支援

スポーツの持つ教育効果を引き出し、甲南生の模範となる学生アスリートを育成することを目的に、各種のスポーツ強化支援制度を改革。一般学生・教職員・卒業生の帰属意識向上、キャンパス活性化を目的に、「甲南大学体育会観戦ツアー（アメリカンフットボール部、バレーボール部）」を実施。



甲南大学体育会観戦ツアー

(9)スポーツ推薦入学者への教育支援

スポーツ推薦入学者を対象にした基礎体育学演習特別クラスを学部ごとに編成し、スポーツ活動や学生生活を自らマネジメントする力をつけることを目的とした特別カリキュラムを実践。加えてスポーツ推薦入学者の個性を活かすため、各学部、キャリアセンター、教育学習支援センター等全学的な連携を強化。

(10)自己点検評価の推進、内部質保証システムの構築

法科大学院及び社会科学部研究科会計専門職専攻が、大学基準協会による認証評価で「適合」認定。また、平成25年度の認証評価で受けた指摘事項を改善、学園創立100周年に向けた内部質保証システムの構築と「教育力の甲南」を具現化する教育課程編成を引き続き検討。

I 事業の概要

2 研究

(1) 学内の各種研究助成による研究支援

「平生太郎基金」、「甲南学園教育・研究基金」等の運用果実を活用し、研究、出版、外国人研究者の招へい等の事業を助成。

① 平生太郎基金科学研究奨励助成

申請者	研究課題	研究期間	助成金額 (千円)
杉本 直己 (先端生命工学 研究所教授)	甲南DNAドックによる疾患リスクの革新的早期診断システムの構築	平成25年4月1日 ～ 平成30年3月31日 (5年間)	15,000 (期間5年/ 総額約1億円)
秋宗 秀俊 (理工学部教授) (物理学)	超新星爆発と核物質	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日 (5年間) ※	9,000
久原 篤 (理工学部准教授) (生物学)	動物の温度適応の分子神経メカニズム	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日 (5年間) ※	5,000
檀上 博史 (理工学部准教授) (機能分子化学)	有機機能材料創製を指向した巨大かご形分子の開発	平成26年4月1日 ～ 平成27年3月31日 (1年間)	3,000
平成26年度助成金額合計			32,000

※但し、助成対象研究期間は平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)とする。
※平生太郎基金科学研究奨励助成…学園創設者平生三郎郎のご子息、太郎氏のご令室である故平生愛子様から遺贈を受けた財産で、科学研究(医学を含む)を奨励することを目的とした基金。平成6年度より開始された学園の研究奨励助成制度。

② 平生記念人文・社会科学研究奨励助成

申請者	研究課題	研究期間	助成金額 (千円)
中谷 健太郎 (文学部教授) (英語英米文学)	SOV言語話者の文理解にともなう記憶資源利用のメカニズムの解明～記憶容量の個人差との相関から	平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日 (3年間) ※	500
富樫 公一 (文学部教授) (人間科学)	トラウマ体験者がトラウマの不条理さを人生の中に組織するプロセスに関する精神分析的考察	平成26年4月1日 ～ 平成30年3月31日 (4年間) ※	500
佐藤 公美 (文学部准教授) (歴史文化学)	中世アルプス山間都市と周辺地域の政治社会	平成26年4月1日 ～ 平成28年3月31日 (2年間) ※	500
平成26年度助成金額合計			1,500

※但し、助成対象研究期間は平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)とする。
※平生記念人文・社会科学研究奨励助成…平生太郎基金の遺贈者の精神に喚起された学園が学園の資金で人文・社会科学系分野の研究を奨励する助成制度。

③ 伊藤忠兵衛基金出版助成

申請者	著書名	助成金額 (千円)
大西 彩子 (文学部准教授)	いじめ加害者の心理学 —学級でいじめが起こるメカニズムの研究—	1,249
久保田 秀樹 (経営学部教授)	ドイツ商法現代化と税務会計	1,151

※昭和51年、第3代・第5代理事長伊藤忠兵衛の遺言により遺贈を受けた財産で、学術研究の出版を助成することを目的とした基金。その後、昭和57年にその他の特定基金として統合し、甲南学園教育・研究基金となり、同時に国際交流助成制度を整備した。



④ 国際交流助成

外国人研究者招へい及び学生の海外派遣事業に9件、合計801,390円を助成。

⑤ 総合研究所共同研究

学術の進歩に寄与することを目的として、昭和59年に設置された総合研究所の下、人文・社会・自然科学の諸分野にわたる総合的な共同研究6件に対し、研究費を助成。

(2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の展開

平成25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された2件の研究、①「環境応答を司る細胞ネットワークの機能発現の分子細胞メカニズムの解明」(統合ニューロバイオロジー研究所 期間：平成25年度から5年間)、②「核酸の非標準構造を標的とした細胞応答の化学的制御技術の構築と先制核酸医学への展開」(先端生命工学研究所 期間：平成26年度から5年間)を推進。

(3) 私立大学等経常費補助金特別補助(大学間連携等共同研究)による共同研究の実施

理工学部と知能情報学部が私立大学等経常費補助金特別補助(大学間連携等共同研究)を申請。13件(新規6件、継続7件)の共同研究を推進。

(4) 科学研究費助成の採択、研究支援体制の強化

文部科学省、日本学術振興会による平成26年度科学研究費助成事業の研究課題は89件(新規36件、継続53件、転入者含む)、新規採択率43.5%。日本学術振興会二国間交流事業や科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業等の公的研究費、公益財団法人ひょうご科学技術協会をはじめとした各種財団の研究助成等にも多くの研究課題が採択。

HUMAP 兵庫海外研究ネットワーク(HORN)事業に採択され、ケルンビジネススクールのシェラー教授を招へいし、公開講演会を実施。

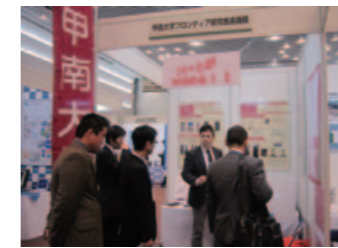
(5) 研究支援の強化、コンプライアンスへの対応

各種競争的研究資金の申請から管理・執行までの一元的な支援体制の強化、科研費関連説明会の開催、各種助成金情報(定期的な発信、産官学連携コーディネーターとの連携による研究費獲得に向けた積極的な取組)の推進。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に対応した規程制定、改正、管理体制の整備、コンプライアンス教育を実施。

(6) 知的財産の活用促進、管理体制の構築

高性能有機電子材料に関する研究成果を実用化レベルへと強化・展開することを目的に機能分子化学科 木本講師らの研究グループを中心に技術研究組合に加盟(関西圏の大学では初)。本学教員の池田泉州銀行ビジネスエンカレッジフェア研究シーズを積極的に発信するとともに、研究成果を産官学連携に有益な各種展示会、「イノベーション・ジャパン ー大学見本市ー」、新技術説明会、国際フロンティア産業メッセ、池田泉州銀行ビジネスエンカレッジフェア等に出展。



池田泉州銀行ビジネスエンカレッジフェア

3 学生支援活動

(1) 学生生活の支援

学生生活支援体制の充実、修学支援を必要とする学生への対応、学生マナーアップの推進、学内奨学金と学長表彰・学長顕彰等各種表彰の充実、学内給付制奨学金受給者・特待生で構成される「甲南スカラシップ倶楽部」の拡充、学生の健康保持・増進、課外活動への支援と活性化。甲南大学父母の会からの支援「父母の会・学生GP」を活用した学生主体の様々な取組を喚起。



甲南スカラシップ倶楽部卒業記念パーティー

(2) キャリア形成・就職支援

窓口開室時間の延長、キャリアカウンセラーの配置、体系立てた筆記試験対策の強化、「夏休み就活弾丸ツアー in TOKYO」「業界・企業研究講座 in TOKYO」の拡充、就職



業界・企業研究講座 in TOKYO

活動開始時期変更に伴う対応を実施。学内合同企業説明会や企業研究セミナーの実施等、学生の特性や意識、個々のニーズや状況に応じたきめ細かなフォローアップにより、平成26年度の就職率は98.0%を達成。

(3) 保護者との関係強化

「教育懇談会」において、各学部およびキャリアセンター説明会、個別学修・就職相談等を実施。(岡本キャンパス、広島市・高松市・名古屋市各1回、参加者合計1,103名)

● 「父母の会・学生GP」採択一覧

代表者学部	テーマ	取組予算
文学部	甲南大学日本語教室「あおぞら」	120,000円
理工学部	岡本キャンパスの植物調査と緑化計画!	500,000円
経営学部	KOBEプレゼン大会	480,000円
マネジメント創造学部	学生主体のオープンキャンパス	372,000円
マネジメント創造学部	学生による Bangladesh 支援活動	500,000円



Bangladesh 支援活動

4 社会連携・貢献活動

(1) 地域連携・貢献活動の推進

東灘区児童館ジャンボリー(東灘区社会福祉協議会との連携)、岡本一斉クリーン作戦(岡本商店街振興組合との連携)等、神戸市東灘区役所や御影クラッセ、岡本商店街振興組合との連携協定に基づく各種活動を推進。学内博物館実習施設「ギャラリー・パンセ」での展示発表、六甲アイランド総合体育施設を活用した地域向けイベント「元気づくりプログラム」、図書館・サイバーライブラリの公開等を実施。



岡本一斉クリーン作戦

(2) 公開講座「ひらめき☆ときめきサイエンス」等の開催

高校生対象「1日科学体験(理工学部)」、小学生・中学生対象「科学とあそぼ! (知能情報学部)」、統合ニューロバイオロジー研究所公開シンポジウム等を開催。また、日本学術振興会事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」の一環として、中学生対象「いろいろな細胞を見てみよう! くらべてみよう! (理工学部・統合ニューロバイオロジー研究所)」「溶液環境でDNAの"カタチ"や"はたらき"を変えてみよう(先端生命工学研究所)」を開催。



1日科学体験

I 事業の概要

(3) 教員免許状更新講習会の開講

小学校・中学校・高等学校の教員を対象に、文学部、理工学部、スポーツ・健康科学教育研究センターにて新学習指導要領解説講座等の7講習を開講。

(4) 産官学連携の推進

本学と関わりのある産業界、官公庁とのネットワーク強化、企業との共同研究に基づく各種活動を活性化。

実績:受託研究12件、共同研究35件、奨学寄附金31件

(5) 自治体連携・大学間連携の推進

グランフロント大阪ナレッジキャピタルで神戸市との共催事業「大学都市KOBE! 発信プロジェクト」を実施、被災地ボランティア活動等で「大学コンソーシアムひょうご神戸」加盟大学と相互交流、「西宮市大学交流協議会」の大学共通単位講座や市民対象講座等へ講師を派遣、甲南女子大学と単位を互換。



被災地ボランティア活動

「大学コンソーシアムひょうご神戸」加盟大学と相互交流、「西宮市大学交流協議会」の大学共通単位講座や市民対象講座等へ講師を派遣、甲南女子大学と単位を互換。

(6) 生涯学習・スポーツ振興の支援

社会人講座、各種シンポジウム、公開講座、ジュニアスポーツクラブ等を開催。

1 公開講座

- 春期「生きるしくみ・感じるしくみ」総合生物学の最前線
- 夏期「学んで、触ろう、タブレットでクラウド体験！」
- 秋期「関西こそが日本を元気にする！」
- 冬期「バドミントン教室」～ショート・リターンカUP!～



冬期公開講座「バドミントン教室」

2 「言語と文化」講座

- 言語講座（英会話・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）
- 社会人講座「これからの外国語教育」—外国語を学び続けるために—

3 スポーツ講座

- 「ジュニア柔道クラブ」（幼稚園児・小学生対象）
- 「ジュニアバドミントンクラブ」（小・中学生対象）
- 「ジュニアランナーズスクール」（小・中学生対象）
- 「女子サッカークラブ」（小学生以上対象）
- 「ジュニア器械運動クラブ」（幼稚園児・小学生対象）

4 ネットワークキャンパス東京 主な公開講座等

- 「美しくもせつない万葉集の世界」—巨匠が遺した、情緒溢れる写真とともに—
- 「科学的にアプローチする頭とカラダの元気」

- 脳科学による発育・発達セミナー「子供は、『共感力』で豊かな人間関係を築く」
- 「スイーツなマーケティング論」—神戸・老舗洋菓子メーカーの挑戦—
- 経済学部×野村證券株式会社「やさしい経済教室」
- 「コーポレート・ガバナンスと会社法改正」

5 その他の主な公開講演会、イベント等

- 先端生命工学研究所
「FIBER FUTURE COLLEGE Lectures in Nano Bio Now Series」
「Nano Bio College 2014」
「FIBER未来大学 Series」
「FIBER 若い世代の特別講演会」
- ひらめき☆ときめきサイエンス
「溶液環境でDNAの"カタチ"や"はたらき"を変えてみよう」
「いろいろな細胞を見てみよう！くらべてみよう！」



ひらめき☆ときめきサイエンス

- 人間科学科研究所
「トラウマケアを必要な人に『届ける』ためにできることを考える」
「甲南大学心理臨床カウンセリングルームによる子育て支援の15年 —臨床心理士の視点」
光島貴之講演会「芸術家にとって創作はセラピーか」
- ビジネス・イノベーション研究所
「日本の製造業における現場力向上」～鉄鋼・交通産業機械分野を例に～
「アジア・ビジネス連携の今、これから」
「ローカルとグローバル 日本酒の国際展開」
「経営学のススメ」～こんなところでも活用できる経営学2014～



「アジア・ビジネス連携の今、これから」

- その他
Joint Lecture「経済学と経済学のあいだ」
「疲労の科学と過労対策」
近松素子展「すくいあげる」
「アウトサイダー・アート」再考—その流通とマーケット—



5 環境整備

(1) 学園創立100周年を視野に入れた中期課題、「教育力の甲南」を具現化するための施設設備の充実、安全・安心なキャンパスづくりキャンパス整備の推進

岡本キャンパス学生会館エリア再開発(KONAN INFINITY COMMONS)

の設計、岡本キャンパス2号館グローバルゾーン化工事を開始。学生の主体的学びを喚起・活性化させるための教室改修工事や、これまで取り組んできた省エネルギーへの取り組みをさらに進め、サイバーライブラリ、講義室等の照明をLED化。また、防災訓練の改善と災害備蓄品を整備し、震災写真展を開催。



グローバルゾーンイメージ



震災写真展

(2) 情報インフラ整備の推進

無線LAN環境のセキュリティ強化、認証方式の統一化、キャンパス全エリアを通信接続可能エリアとすることを目標にアクセスポイントを設置。

(3) 六甲アイランド陸上競技場の公認申請

六甲アイランド陸上競技場の保守整備を行い、第4種競技場としての公認を更新する手続きを実施。

6 学生募集・入学試験に係る活動

(1) 学生募集活動の強化

オープンキャンパスの充実、合格対策セミナーと保護者対象説明会の開催、高校教員対象説明会と高校訪問の充実を図り、教学コンテンツの発信に重点を置き、「育成型」入試の実現に向けた広報展開を推進。



オープンキャンパス（模擬裁判）

(2) 甲南高等学校との連携・接続の推進

平成25年度から連携強化を目指して制度見直しを推進していた甲南高等学校からの推薦入学試験の実行準備。建学理念に基づく人物教育を目的とした一貫教育体制確立に向けた連携プログラムの検討を開始。

(3) 協定校・指定校との連携・接続の推進

協定校・指定校等、重点校との関係強化に向けて、高等学校等への出張講義を充実させ、指定校推薦依頼校教育交流会・協定校対象OB・OG交流会等の各種イベントを実施。

7 スポーツ・文化活動

(1) 第3期強化指定団体選定と各種助成金の支給

スポーツ強化支援「強化指定団体制度」に基づき、第3期強化指定団体（11団体）を選定。

体育会クラブへの助成金制度を見直し、目的別（「重点強化」「活性化」「振興」）に助成金を支給。

【強化指定団体】

特別強化指定団体	陸上競技部
強化指定団体	アメリカンフットボール部、弓道部、硬式庭球部、硬式野球部、ゴルフ部、サッカー部、準硬式野球部、バドミントン部、バレーボール部、ヨット部

※指定期間は平成26年4月1日から平成30年3月31日までの4年間とする。

(2) 主な活動成果

ヨット部

- ・全日本ジュニアスナイプ級選手権大会（U-22）個人優勝
- ・西半球選手権&東洋選手権大会 日本代表として参戦
- ・平成26年度兵庫県体育協会表彰 優秀選手賞（国際大会）受賞

陸上競技部女子

- ・第98回日本陸上競技選手権リレー大会 4×100mリレー 3位入賞
- ・天皇賜杯第83回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子走高跳2位
- ・2014日本学生陸上競技個人選手権大会 女子走高跳 優勝/3位入賞



陸上競技部女子

弓道部

- ・第38回全日本学生弓道女子王座決定戦団体優勝（17年ぶり3度目）



弓道部

ゴルフ部

- ・第61回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権 個人3位入賞
- ・平成26年度文部科学大臣杯争奪第7回全日本大学・高等学校ゴルフ対抗戦 個人3位入賞

自動車部

- ・平成26年度全日本学生運転競技選手権大会 男子小型乗用B 個人4位
- ・平成26年度全日本学生ジムカーナ選手権大会 男子団体 6位
- ・全日本学生ダートトライアル選手権大会 団体優勝/個人優勝

I 事業の概要

高等学校・中学校関係

1 教育

平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育の実現

- ・中学1年生、2年生を対象とした、校長・副校長による道徳教育
- ・中学3年生を対象とし、社会で活躍する卒業生を講師として招へいた「OBワークショップ」
- ・「理科特別実験」、教科「情報」、「特色ある科目」等での甲南大学各学部との連携授業
- ・弁護士を講師とした「人権学習講演会」
- ・環境学習等を介した、甲南小学校、甲南女子中学校・高等学校、甲南大学との連携強化

2 学習活動・学校生活支援活動

日常の学習意欲喚起、学力の向上、徳育の強化

- ・各教室のプロジェクターをはじめとするAV・IT機器の活用促進、学習活動の質的向上と同AVシステムの一斉配信機能を利用した平生精神やマナー教育の充実
- ・読書習慣を身につけるための学年文庫を充実させるとともに、「朝読」の継続実施
- ・総合学習、E-study等図書館利用教育の更なる推進
- ・英語教育の充実（「多読プログラム」に関する図書充実、ネイティブ教員における「サマーキャンプ」「チャンツコンテスト」、中学2年生対象「イングリッシュキャンプ」、文化祭での「English Festival」の実施）
- ・学習センターでの放課後学習支援の充実
- ・高校1年生・高校2年生を対象とした学習合宿の実施
- ・高校1年生を対象としたオリエンテーション合宿の実施
- ・海外協定校とのクラブ間交流の実施



チャンツコンテスト

3 「グローバル・スタディ・プログラム」の充実

英語コミュニケーション力の向上

- ・国際ビジネスや多民族・多国籍文化を体感するシンガポールへのスタディツアーを新規で実施。海外の大学から日本の大学や大学院に留学中の外国人学生が、小グループのチューターとなり、一日6時間すべて英語で3日間、議論し口頭発表を繰り返す「エンパワーメント・プログラム」（新規）を実施。高校2年生・3年生の履修生と高校1年生・中学3年生の希望者を含めた計45名が参加。

4 教育力の向上

校外の研修会やセミナーでの研鑽、授業相互見学等の教員研修会を充実。

5 環境整備

安心・安全なキャンパスづくりを目的とした、高校棟の空調更新、ネットフェンス改良によるセキュリティの強化、老朽化した施設の修繕・更新。

6 進路状況

それぞれのコースの特性を活かし、一人ひとりの適性や個性に応じて自己の進路を確立。系列校推薦で半数が甲南大学へ進学。その他は神戸大学をはじめとした国公立大学、首都圏・関西等の私立大学に加え、海外の大学にも進学。

7 生徒募集・入学試験に係る活動

「人創り」の精神、甲南独自の教育内容を伝えるための取組み

創立者平生鈺三郎の教育理念、独自色豊かな教育内容、及び新コース制の導入をより広く効果的にPRすることを目的に、学内外での入試説明会を充実、校内での説明会は教職員全員参加で実施。教育情報誌や新聞等に加え、学校情報サイトや交通広告等を有効に活用した広報を展開。

8 スポーツ・文化活動

主な活動成果

<高等学校>

- テニス部：県高校総体ダブルス準優勝（全国大会出場）、兵庫県ジュニアフェスティバル17歳以下 ダブルス優勝、全国選抜テニス大会出場
- ゴルフ部：関西高校ゴルフ対抗戦5位（全国大会出場）
- アーチェリー部：県民大会 団体優勝・個人優勝、兵庫県高体連アーチェリー新人戦 70mラウンド団体優勝・個人優勝、兵庫県室内大会高校男子の部 優勝
- 弓道部：県高校総体個人 準優勝（全国大会出場）、県新人戦 団体優勝
- ホッケー部：近畿大会 第3位（5年ぶり）全国高校総体出場
- ブラスアンサンブル部：スチューデントジャズフェスティバル 日本ジャズ教育協会会長賞（全国3位）
- 将棋部：兵庫県総合文化祭A級個人戦 優勝、近畿総合文化祭A級戦 優勝
- 書道部：国際高校生選抜書展 秀作高野山競書大会 金剛峯寺賞、全国総合文化祭書道部門出場
- 理数コース特別実験臨海実習班：サイエンスキャッスル2014 ポスター最優秀賞

<中学校>

- テニス部：全国中学生テニス選手権団体 優勝（5年ぶり5度目で史上最多優勝回数）、兵庫県総合体育大会 団体優勝・ダブルス優勝、近畿総合体育大会 団体優勝・ダブルス優勝、兵庫県新人テニス大会 団体優勝、兵庫県総合体育大会 優勝、全国選抜中学生テニス大会出場
- ゴルフ部：関西中学校ゴルフ対抗戦団体戦 準優勝（全国大会出場）
- アーチェリー部：兵庫県室内大会中学男子の部 優勝
- ラグビー部：兵庫県ジュニアラグビー大会 プレートトーナメント優勝、兵庫県中学校新人戦 優勝（3年連続）

法人関係

1 管理運営

(1) 学園創立100周年に向けた体制の構築

学園創立100周年を見据え、学園顧問規程、募金関係の規程を改廃し、募金体制を整備。100周年史の編纂に向けた体制を構築。

(2) 奨学助成基金の充実

給付制奨学金の更なる充実を目的に第3号基本金の組入れ（5,000万円）を継続。貸与制奨学金の延滞者（10年以上）への適切な回収を継続実施。

(3) 有形固定資産データの活用

資産管理システムの登録データを基にした減価償却額のシミュレーションにより、長期修繕計画、基本金計画、固定資産取得計画等に資する基礎データの作成に着手。

(4) 学園情報基盤の再構築

情報教育研究センター事務室の運用管理業務と総務部事務システム課の業務を統合し、新たに「情報システム室」を設置。教育系・事務系ネットワークを束ねたセキュリティポリシーや関連実施規程等を定め、学園情報基盤を再構築。

(5) 教育振興募金の活動

大学の教育研究施設、教育プログラム、奨学金制度の充実や、高等学校・中学校の教育環境の維持・向上等の資金確保を目的とした教育振興募金に、学生・生徒の保護者等から約8,000万円のご芳志を拝受。

(6) ネットワークキャンパス東京の活動強化

学生の利用促進、卒業生の愛校心醸成、首都圏における学園の知名度向上を図るべく、以下のとおり従来取組を充実させるとともに、新しい企画を実施。

- ①学生の就職相談業務の強化
- ②若手卒業生向け勉強会の開催
- ③東京甲南会との連携強化
- ④企業の第一線で活躍する方と本学の教員とのコラボレーションによる公開講座の開講

なお、平成26年度の利用者数は、学生687名、教職員127名、卒業生2,546名、その他（公開講座受講生、研究会参加者等）985名。



公開講座「やさしい経済教室」

2 広報活動・卒業生との連携

(1) 「阪神間モダニズム」に依拠した広報活動の展開

「阪神間モダニズム」の中で培われた甲南学園の魅力を発信する新たな方法として、兵庫県の歴史を紹介する新聞広告「ひょうご歴史紀行」を神戸新聞にて全13回シリーズで連載。甲南に関連した歴史を広めることで読者に新たな発見を与える広告を超えた取組として展開。

(2) 青少年の育成支援・地域社会への貢献を目的としたスポーツ、文化・芸術活動への協賛

ヴィッセル神戸や堺ブレイザーズの児童育成活動や、兵庫県立芸術文化センターでの芸術・文化活動への支援を継続。さらに、甲南大学OBのプロバスケットボール選手である谷直樹選手が所属する兵庫ストークスのオフィシャルスポンサーとして協賛するなど、より幅広い支援活動を実施。



堺ブレイザーズ「バレーボール教室」

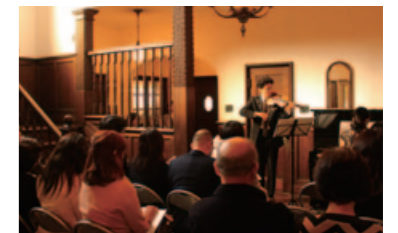
(3) 平生日記の翻刻

学園創立90周年を記念して開始した、学園創立者平生鈺三郎の32年間にわたる日記の翻刻事業を継続。平成26年度は、第9巻と第10巻（昭和2年5月2日～昭和4年8月31日）を刊行。

(4) 学園史資料の活用

貴志康一記念室では、生誕105年を迎えた貴志作曲の交響曲「仏陀」のオーケストラスコアを出版。また、高等学校・中学校の保護者を対象に、芦屋市内のギャラリー「開雄」にて、貴志作品を中心としたサロンコンサートを開催。

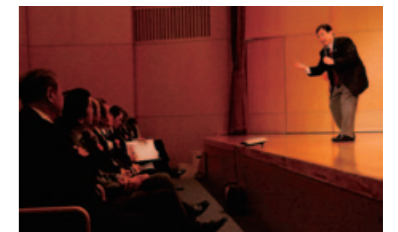
旧制甲南高等学校で学び、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮した貴志康一の功績と併せ、学内外への広報活動を継続実施。



サロンコンサート

(5) 卒業生との連携強化

ホームカミング・デー「オール甲南の集い」を学園祭と同日に、同窓会と共同で開催。元東京2020オリンピック・パラリンピック誘致委員会・CEO、東京甲南会会長の水野正人氏による特別講演会には、約400名が参加。



オール甲南の集い「特別講演会」（水野正人氏）

II 財務の概要

平成26年度決算の概要

本学は平成24年度より入学者数を抑制し、少人数教育を徹底する環境を整えてきました。毎年学生生徒等納付金収入が減少することになりますが、より効果の高い教育の展開を優先しています。財務面ではそれを支えるべく取り組んできました。平成26年度は、これまで通り財政健全化のためのガイドラインを設けるとともに、予算執行段階において購入物品等の質の向上と徹底して無駄を省くコストコントロールに努めました。また8月に長坂新学長が就任し、本学の新たな魅力を創出する特色ある44のサブプロジェクトからなる「KONAN プレミアプロジェクト」(P.3ご参照)がスタート。財務面でもその取組みを後押ししました。

また中高においては、中高新体育館と新甲友会館の建設及び関連工事である中高再開発事業(創立90～100周年募金事業を含む)が着実に進捗し、その一部甲友会館が12月に竣工を迎えることができました。平成27年度には新体育館の竣工、さらに防災関連工事を行い、再開発事業に目途をつけますが、本事業は創立100周年にもつながる事業として位置づけており、本学の第2世紀目を力強く歩むプロジェクトです。財務面からも計画的に支え、事業を推進しています。

以下、決算の概要をご説明致します。

資金収支決算の概要

資金収入は、予算対比で見ますと、大学部門において志願者が減少したことによる手数料収入減。また学生数の減少等による学生生徒等納付金収入減。補助金収入も想定よりも減少しました。一方、退職者の増加による雑収入(退職金財団からの交付金収入)が増えたこともあり、資金調整勘定・預り金等を除く経常的な資金収入は、予算を19百万円上回る177億43百万円となりました。

他方、資金支出は、執行段階での相見積り取得等による経費の圧縮、施設関係支出で一部教育研究経費に振替えたことから予算残が発生しましたが、退職者の増加による人件費支出および特定資産等への積立てによる資産運用支出がそれぞれ増加したため、171億43百万円となりました。これを踏まえ、大学将来計画準備引当特定資産、大学教育・研究環境整備充実引当特定資産に積増しを行い、経常的な資金支出は177億23百万円となりました。

以上から今年度の経常的な資金は20百万円の資金収入の超過となりました。

資金収支計算書(学園総括) 平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:千円)

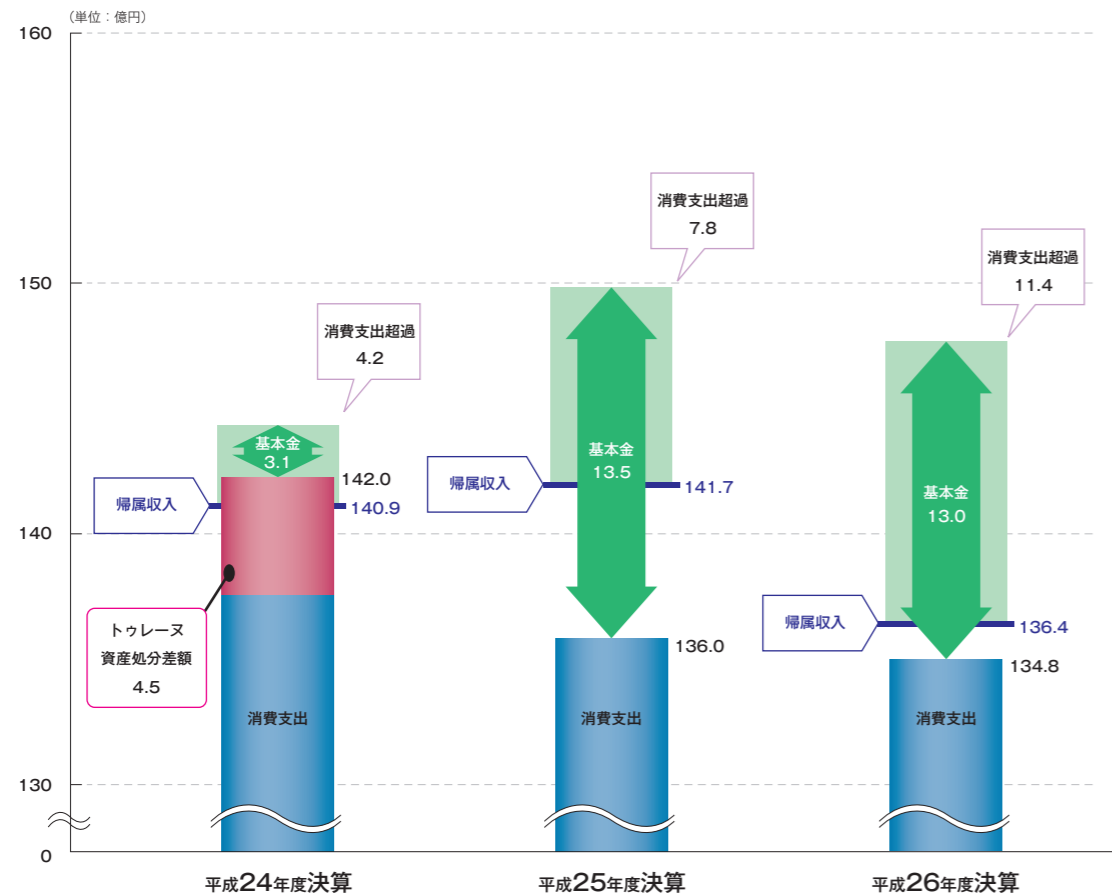
収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	10,627,806	10,607,346	20,460	人件費支出	8,198,934	8,253,301	△ 54,367
手数料収入	572,111	531,958	40,153	教育研究経費支出	2,974,850	2,949,781	25,069
寄付金収入	120,940	122,260	△ 1,320	管理経費支出	588,515	571,219	17,296
補助金収入	1,372,270	1,362,336	9,934	借入金等利息支出	0	0	0
資産運用収入	210,373	203,122	7,251	借入金等返済支出	0	0	0
事業収入	124,852	137,855	△ 13,003	施設関係支出	1,373,235	1,220,977	152,258
雑収入	563,805	619,842	△ 56,037	設備関係支出	439,562	429,002	10,560
その他の収入	4,131,421	4,158,016	△ 26,595	資産運用支出	3,503,141	4,211,938	△ 708,797
				その他の支出	24,122	22,620	1,502
				予備費	(177,272)	9,728	9,728
計	17,723,578	17,742,735	△ 19,157	計	17,112,087	17,658,838	△ 546,751
資金調整	0	0	0	資金調整	66,145	64,288	1,857
収入の部合計	17,723,578	17,742,735	△ 19,157	支出の部合計	17,178,232	17,723,126	△ 544,894
収入超過額	545,346	19,609					

(注) 1.資金調整勘定、仮払金、立替金、預り金、前受金等は含んでいない。
2.「資金調整」は貸付金の収支差額を表す。

注記 予備費からの振替 教育研究経費支出 131,732 管理経費支出 21,110 施設関係支出 1,569
設備関係支出 22,839 その他の支出 22
計 177,272

平成24年度～26年度決算の推移

消費収支の推移
(平成24年度～平成26年度)



消費収支計算書(学園総括) 平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	10,627,806	10,607,346	20,460	人件費	8,130,988	8,144,102	△ 13,114
手数料	572,111	531,958	40,153	教育研究経費	4,719,158	4,703,433	15,725
寄付金	147,940	172,724	△ 24,784	管理経費	604,441	588,513	15,928
補助金	1,372,270	1,362,336	9,934	借入金等利息	0	0	0
資産運用収入	210,373	203,429	6,944	資産処分差額	0	39,078	△ 39,078
事業収入	124,852	137,855	△ 13,003	徴収不能引当金繰入額	0	6,486	△ 6,486
雑収入	563,805	619,842	△ 56,037	徴収不能額	0	2,145	△ 2,145
帰属収入合計	13,619,157	13,635,490	△ 16,333	予備費	(152,842)	34,158	34,158
基本金組入額	△ 1,400,430	△ 1,299,164	△ 101,266				
消費収入の部合計	12,218,727	12,336,326	△ 117,599	消費支出の部合計	13,488,745	13,483,757	4,988
				消費収入超過額	△ 1,270,018	△ 1,147,431	
				前年度繰越消費収入超過額	△ 9,226,882	△ 9,226,882	
				翌年度繰越消費収入超過額	△ 10,496,900	△ 10,374,313	

注記 予備費からの振替 教育研究経費 131,732 管理経費 21,110
計 152,842

II 財務の概要

I 消費収支決算の概要

学園全体の帰属収入は136億35百万円、基本金組入額は教育研究用機器備品などを処分したことにより予算を下回る12億99百万円となり、帰属収入から基本金組入額を除いた消費収入は123億36百万円となりました。一方、消費支出は134億84百万円となり、その結果、帰属収支差額は1億51百万円の収入超過、消費収支差額は11億48百万円の支出超過となりました。

予算対比でみますと、帰属収入は大学において入学志願者数が減少したものの、定年退職以外の退職者が出たことによる退職金財団交付金、および現物寄付が増加したこともあり、16百万円の増収(予算136億19百万円に対して決算は136億35百万円)となり、基本金組入額は1億01百万円の減少(予算14億00百万円に対して決算は12億99百万円)となりました。一方、消費支出は退職給与引当金繰入額等の増加により人件費が増え、さらに資産処分差額、徴収不能引当金繰入額、徴収不能額が発生しましたが、教育研究経費、管理経費、予備費の各々に残額があったため、差し引き5百万円の減少(予算134億89百万円に対して134億84百万円)となりました。以上の結果、消費支出超過額は予算より1億22百万円減少しました。

他方、前年度決算と比較しますと、帰属収入のうち、学生生徒等納付金は“教育力の甲南”の実現を目指し、圧倒的な少人数教育の実践に向けた基盤整備として1年次生の入学者を抑制したため、前年度に引き続き減額となりました。また大学において入学志願者が減少し、手数料収入が減収となりました。他方、退職者が増えたことから雑収入(退職金財団交付金収入)が増えました。しかし篤志家からの寄付金が計上できた前年度(帰属収入は141億74百万円)よりも大きく減額し、帰属収入は前年度を5億39百万円下回りました。

また基本金組入額は先述のとおり12億99百万円となり、帰属収入の10%弱(9.5%)を計上することとなりました。引き続き中高体育館の建設に係る資金を組入れたことが特徴です。また科学研究費補助金で購入のあった機器備品の現物寄付も増えました。他方、前年度は篤志家からの寄付を奨学金財源として第3号基本金に組入れを行いました、今年度はその要因での

組入れはなく、53百万円の組入れ減少(前年度の基本金組入額は13億52百万円)となりました。

以上を受け、消費収入は4億86百万円の減少となりました(前年度の消費収入は128億22百万円)。

一方、消費支出は前年度の中高再開発に伴う建物の除却による資産処分差額がなくなったことから、1億20百万円の支出減(前年度の消費支出は136億04百万円)となりました。その結果、消費収支差額は前年度に比べて3億66百万円の増加(前年度の消費支出超過額は7億82百万円)しました。

消費収支決算・構成比率

I 法人・大学・高等学校・中学校の部(学園総括) (単位:千円)

	科目	金額	構成比率
消費収入	学生生徒等納付金	10,607,346	77.8%
	手数料	531,958	3.9%
	寄付金	172,724	1.3%
	補助金	1,362,336	10.0%
	資産運用収入	203,429	1.5%
	事業収入	137,855	1.0%
	雑収入	619,842	4.5%
	帰属収入合計	13,635,490	100.0%
消費支出	基本金組入額	△1,299,164	△9.5%
	消費収入の部合計	12,336,326	90.5%
	人件費	8,144,102	59.8%
	教育研究経費	4,703,433	34.5%
	管理経費	588,513	4.3%
	資産処分差額	39,078	0.3%
	徴収不能引当金繰入額	6,486	0.0%
	徴収不能額	2,145	0.0%
消費支出の部合計	13,483,757	98.9%	
消費収支差額	△1,147,431		

※表の構成比率及び円グラフは、帰属収入を100とした場合の当該科目の比率及び円グラフとなっております。

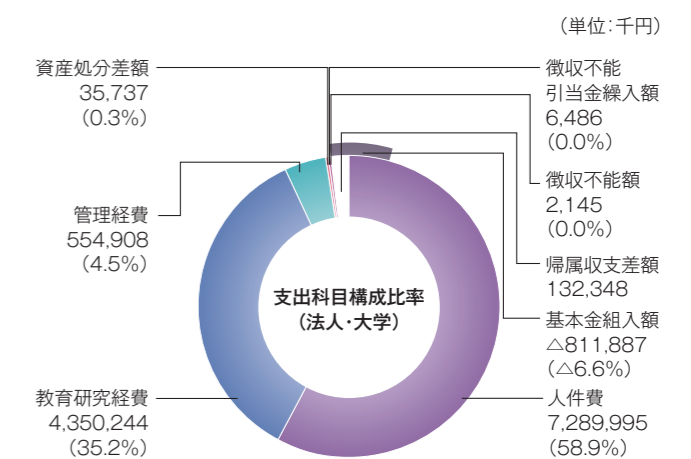
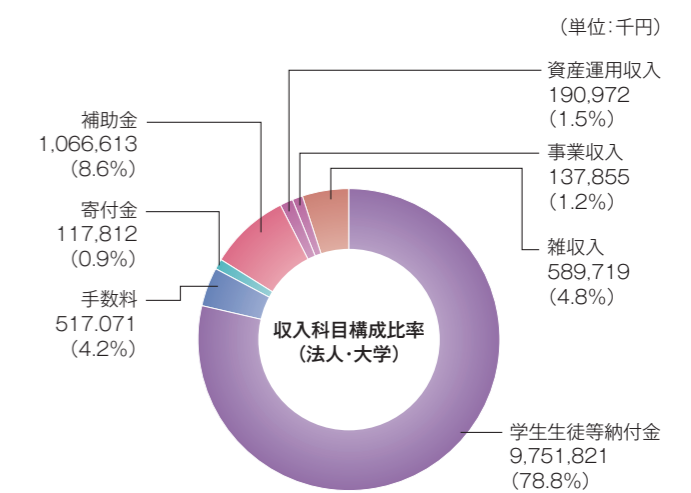
《用語(科目)の説明》

- 1. 学生生徒等納付金**
授業料・入学金・施設設備資金・施設維持費・教育充実費・実験実習費等
- 2. 手数料**
入学検定料・証明書手数料等
- 3. 寄付金**
教育振興募金、企業様からの研究助成、現物寄付等
- 4. 補助金**
経常費補助金(大学改革推進等、戦略的研究基盤形成支援事業を含む)・研究装置、設備、施設整備費等補助金等
- 5. 資産運用収入**
受取利息配当金・施設設備利用料収入等
- 6. 事業収入**
受託事業・収益事業にかかる収入等
- 7. 雑収入**
退職金財団からの交付金収入、研究費の間接経費分の収入等
- 8. 基本金組入額**
校地・校舎・機器備品・図書等教育研究の充実・拡充のために取得した固定資産のうち、帰属収入をもって充当した額および教育研究基金等への組入額
- 9. 人件費**
教員・職員に支給する本俸・期末手当・その他の手当及び所定福利費、役員報酬、退職給与引当金繰入額、退職金
- 10. 教育研究経費**
教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- 11. 管理経費**
教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- 12. 資産処分差額**
固定資産(建物・構築物・備品・図書等)の除却による廃棄差額
- 13. 徴収不能引当金繰入額**
奨学金回収不能額を見積る引当金計上額
- 14. 徴収不能額**
奨学金の回収など、徴収が不能または徴収を免除した額

消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

I 法人・大学の部

	科目	金額	構成比率
消費収入	学生生徒等納付金	9,751,821	78.8%
	手数料	517,071	4.2%
	寄付金	117,812	0.9%
	補助金	1,066,613	8.6%
	資産運用収入	190,972	1.5%
	事業収入	137,855	1.2%
	雑収入	589,719	4.8%
	帰属収入合計	12,371,863	100.0%
消費支出	基本金組入額	△811,887	△6.6%
	消費収入の部合計	11,559,976	93.4%
	人件費	7,289,995	58.9%
	教育研究経費	4,350,244	35.2%
	管理経費	554,908	4.5%
	資産処分差額	35,737	0.3%
	徴収不能引当金繰入額	6,486	0.0%
	徴収不能額	2,145	0.0%
消費支出の部合計	12,239,515	98.9%	
消費収支差額	△679,539		



《用語の説明》

- 資金収支**…………… 1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の顛末を表わすものです。
- 消費収支**…………… 企業会計の損益計算の仕組みを引用し、消費収入(収益)と消費支出(費用)の内容と均衡の状態を明らかにしようとするものです。具体的には、「帰属収入」から「基本金組入額」を差し引いた「消費収入」を、当年度消費する資産および用役の対価としての「消費支出」と対比し、収支の均衡を判断します。
- 帰属収入**…………… 資金収支計算の収入の部「学生生徒等納付金収入」、「手数料収入」、「寄付金収入」、「補助金収入」、「資産運用収入」、「事業収入」、「雑収入」に現物寄付を加えたもので、負債とならない正味の収入をいいます(外部からの借入金のように学校法人の負債となる収入は含みません)。
- 基本金組入額**…………… 基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な校地・校舎、機械器具、図書等取得した金額(第1号基本金)、校地、校舎等取得するために年次的、段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、さらには教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)および恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額(第4号基本金)の確保のために、帰属収入からあてられる金額です。
- 消費収入**…………… 帰属収入から基本金組入額を差し引いた残りの収入で消費支出にあてられるものです。
- 消費支出**…………… 資金収支計算書の支出の部の「人件費支出(退職金支出を除き、消費支出科目の退職給与引当金繰入額・退職金を加える)」、「教育研究経費支出・管理経費支出(減価償却額を加える)」、「借入金等利息支出」に消費支出のみの項目である「資産処分差額」、「徴収不能引当金繰入額」、「徴収不能額」を加えたものです。
- 帰属収支差額**…………… 帰属収入と消費支出との差です。
- 消費収支差額**…………… 消費収入と消費支出との差です。
※企業会計と学校法人会計の相違につきましては、本学ホームページに記載しています。

II 財務の概要

消費収支決算の推移(学園総括) 平成21年度から平成26年度まで (単位:千円)

項目	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
帰属収入		14,075,777	14,026,376	13,649,599	14,090,703	14,174,509	13,635,490
基本金組入額		△ 1,111,938	△ 1,607,369	△ 1,164,416	△ 310,128	△ 1,352,153	△ 1,299,164
消費収入		12,963,839	12,419,007	12,485,183	13,780,575	12,822,356	12,336,326
消費支出		13,922,986	13,877,502	13,589,009	14,197,757	13,604,529	13,483,757
消費収入超過額		△ 959,147	△ 1,458,495	△ 1,103,826	△ 417,182	△ 782,173	△ 1,147,431
消費収入超過額累計		△ 5,465,206	△ 6,923,701	△ 8,027,527	△ 8,444,709	△ 9,226,882	△ 10,374,313
帰属収支差額		152,791	148,874	60,590	△ 107,054	569,980	151,733
消費収入超過額累計		△38.8%	△49.4%	△58.8%	△59.9%	△65.1%	△76.1%
帰属収入							

財務状況の推移(学園総括) 平成21年度から平成26年度まで (単位:千円)

項目	年度	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
総資産		89,232,957	88,710,335	88,103,509	88,029,824	88,419,425	88,639,938
固定資産		79,645,176	79,085,692	78,539,816	78,186,273	78,386,264	78,346,382
有形固定資産		60,279,619	59,786,408	58,688,791	57,752,547	57,611,811	57,515,542
その他の固定資産		19,365,557	19,299,284	19,851,025	20,433,726	20,774,453	20,830,840
流動資産		9,587,781	9,624,643	9,563,693	9,843,551	10,033,161	10,293,556
総負債		9,029,741	8,358,244	7,690,828	7,724,197	7,543,818	7,612,598
固定負債		5,946,682	5,562,712	5,117,642	5,008,317	4,787,740	4,678,542
流動負債		3,083,059	2,795,532	2,573,186	2,715,880	2,756,078	2,934,056
(うち、借入金)		775,000	350,000	0	0	0	0
基本金		85,668,422	87,275,792	88,440,208	88,750,336	90,102,489	91,401,653
消費収支差額		△ 5,465,206	△ 6,923,701	△ 8,027,527	△ 8,444,709	△ 9,226,882	△ 10,374,313
正味財産		80,203,216	80,352,091	80,412,681	80,305,627	80,875,607	81,027,340

財務比率の推移(学園総括) 平成21年度から平成26年度まで (単位:%)

	比率	算式(×100)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
			固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	89.2	89.1	89.1	88.8
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	89.8	90.5	91.2	91.2	91.5	91.4	
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	99.3	98.4	97.6	97.4	96.9	96.7	
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金} + \text{固定負債}}$	92.4	92.0	91.8	91.6	91.5	91.4	
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	310.9	344.2	371.6	362.4	364.0	350.8	
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	10.1	9.4	8.7	8.8	8.5	8.6	
退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
償却引当預金率	$\frac{\text{償却引当特定預金(資産)}}{\text{償却引当金}}$	23.6	24.1	25.7	26.1	27.5	29.0	
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	76.1	78.3	80.9	79.4	77.1	77.8	
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	3.0	1.4	1.0	1.0	2.8	1.3	
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	10.4	9.7	9.7	9.0	9.8	10.0	
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	57.0	57.4	57.1	57.9	57.6	59.8	
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	74.8	73.2	70.5	72.9	74.6	76.8	
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	34.9	33.9	34.7	33.0	32.6	34.5	
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	5.0	5.9	7.2	6.2	4.7	4.3	
消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	98.9	98.9	99.6	100.8	96.0	98.9	
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	7.9	11.5	8.5	2.2	9.5	9.5	

(注) 総資金=負債+基本金+消費収支差額
 自己資金=基本金+消費収支差額
 ()内は全国理工他複数学部法人平均

Ⅲ 法人の概要

名称	学校法人甲南学園		
法人設立の年月日	大正7(1918)年12月20日		
設置学校	甲南大学・大学院		
	◎岡本キャンパス	〒658-8501	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	◎西宮キャンパス	〒663-8204	兵庫県西宮市高松町8番33号
	◎ポートアイランドキャンパス	〒650-0047	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20

	甲南高等学校・中学校	〒659-0096	兵庫県芦屋市山手町31番3号

Ⅰ役員(平成27年3月31日現在)

理事※1

定数19～29名以内
現員29名

吉 沢 英 成 (理事長)
長 坂 悦 敬 (学長)
松 田 博 志 (校長)
杉 村 陽 (副学長)
稲 田 義 久 (副学長)
葉 袋 真 人 (常勤)
木 股 知 史 (文学部長)
林 慶 一 (理工学部長)
高 龍 秀 (経済学部長)
前 田 忠 弘 (法学部長)
河 野 昭 三 (経営学部長)
渡 辺 顕 修 (法学研究科長)
岩 崎 晃 (経済学部教授)
佐 藤 治 正 (マネジメント創造学部教授)
杉 本 直 己 (先端生命工学研究所教授)
市 川 典 男 (非常勤)
片 山 勉 (非常勤)
山 田 純 嗣 (非常勤)
伊 藤 勲 (非常勤)
稲 垣 嗣 夫 (非常勤)
岡 橋 輝 和 (非常勤)
岸 勤 治 (非常勤)
角 和 夫 (非常勤)
辰 巳 末 芳 (非常勤)
中 内 仁 (非常勤)

野 澤 太 一 郎 (非常勤)
平 生 誠 三 (非常勤)
水 越 浩 士 (非常勤)
村 津 敬 介 (非常勤)

監事※2

定数2～3名以内
現員2名

植 村 武 雄 (非常勤)
牧 美 喜 男 (常勤)

評議員※3

定数41～60名以内
現員59名

藍 原 正 宜 (学内)
石 井 昇 (学内)
石 野 牧 生 (学内)
井野瀬 久美恵 (学内)
位 原 美 智 子 (学内)
河 口 浩 (学内)
佐 藤 治 正 (学内)
寺 尾 建 (学内)
狭 間 宏 明 (学内)
濱 谷 和 生 (学内)
小笠原 啓 次 (学内)

西 田 和 雅 (学内)
伊 豫 田 隆 俊 (学内)
衣 斐 茂 樹
奥 田 兼 三
片 山 勉
佐 藤 茂
白 石 朋 康
杉 山 洋 一
立 野 純 三
道 満 善 弘
細 谷 俊 雄
松 井 佐 一 郎
丸 谷 昭 博
葉 袋 真 人 (学内)
森 本 啓 久
和 田 直 哉
稲 垣 嗣 夫
岩 崎 晃 (学内)
岸 勤 治
平 生 誠 三
長 坂 悦 敬 (学内)
松 田 博 志 (学内)
木 股 知 史 (学内)
林 慶 一 (学内)
高 龍 秀 (学内)

前 田 忠 弘 (学内)
河 野 昭 三 (学内)
渡 辺 顕 修 (学内)
新 井 真 弓
熊 田 昭 夫
斉 藤 達 雄
坂 本 昌 隆
舟 元 章
荒 屋 ひ と み
山 邑 太 左 衛 門
市 川 典 男
稲 田 義 久 (学内)
岩 崎 邦 彦
岩 田 憲 明
上 島 一 泰
加 藤 隆 久
佐 々 木 良 太 郎
杉 村 陽 (学内)
藤 本 真 人
松 谷 齊 泰
山 内 守 明 (学内)
山 田 純 嗣
吉 沢 英 成 (学内)

※1 学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は、「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」「理事会は学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めています。

※2 監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、①学校法人の業務、②学校法人の財産の状況を監査することが主たる任務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べることその職務とされています。監事は、評議員の同意を得て理事長が選任し、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

※3 評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員会から意見を聞かなければならないこととされています。

Ⅰ土地と建物(平成26年5月1日現在)

土地面積

大学	273,043.63㎡
高等学校・中学校	45,791.00㎡
その他(職員住宅等)	4,908.08㎡
土地面積総合計	323,742.71㎡

建物面積

大学	139,266.81㎡
高等学校・中学校	16,360.99㎡
その他(職員住宅等)	1,624.75㎡
建物面積総合計	157,252.55㎡

大学・大学院・高等学校・中学校基本データ

Ⅰ学位授与

学士

学 部	学 士 (分野)	学 科
文 学 部	学士(文学)	79名
	学士(社会学)	102名
理 工 学 部	学士(工学)	100名
	学士(工学)	84名
	学士(工学)	1名
	学士(工学)	49名
	学士(工学)	48名
経 済 学 部	学士(経済学)	59名
	学士(経済学)	1名
法 学 部	学士(法学)	373名
	学士(法学)	360名
経 営 学 部	学士(経営学)	385名
	学士(経営学)	385名
知 能 情 報 学 部	学士(工学)	122名
	学士(情報学)	1名
	学士(理学)	4名
マ ネ ジ メ ン ト 創 造 学 部	学士(マネジメント)	176名
フ ロ ン テ ィ ア サ イ エ ン ス 学 部	学士(理工学)	34名

修士

研究科	修 士 (分野)	専 攻
人 文 科 学 研 究 科	修士(文学)	5名
	修士(社会学)	1名
自 然 科 学 研 究 科	修士(工学)	3名
	修士(工学)	3名
	修士(工学)	8名
	修士(工学)	12名
	修士(工学)	7名
社 会 科 学 研 究 科	修士(経済学)	11名
	修士(経済学)	6名
	修士(経営学)	3名
	会計修士(専門職)	6名
フ ロ ン テ ィ ア サ イ エ ン ス 研 究 科	修士(理工学)	19名

博士

研究科	博 士 (分野)	専 攻	
自 然 科 学 研 究 科	博士(理学)	6名	
	物理学専攻	1名	
社 会 科 学 研 究 科	博士(経営学)	1名	
	生命・機能科学専攻	5名	
フ ロ ン テ ィ ア サ イ エ ン ス 研 究 科	博士(理工学)	2名	
	経営学専攻	1名	
		生命化学専攻	2名

専門職

研究科	学 位 (専門職)	専 攻
ビ ジ ネ ス 研 究 科	会計修士(専門職)	1名
	会計専攻	1名
法 学 研 究 科	法務博士(専門職)	13名
	法務専攻	13名

高等学校・中学校

主な留学派遣・受入先	派遣人数	受入人数	
交換留学	イギリス	2	0
	オーストラリア	1	2
	ニュージーランド	1	1
	アメリカ(ハワイ)	2	4
グローバル・スタディ・プログラム	カナダ	3	—
	アメリカ	3	—
	イギリス	5	—
	ニュージーランド	7	—
	アメリカ	2	—
外部団体(YFU、AFS等)	オランダ	1	—
	ドイツ	1	—
	英語研修旅行	24	23
グローバル・スタディ・ツアー	シンガポール	18	—
	ニュージーランド	37	—
合計	107	30	

※主な派遣先大学は22校(アメリカ・カナダ・イギリス・ドイツ・フランス・オーストラリア・韓国・中国・台湾・マレーシア・シンガポール)

Ⅲ 法人の概要

I 入学試験状況

大学

学部・学科	一般入試				センター利用入試				その他の入試			
	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
文学部	日本語日本文学科	453	445	172	57	312	308	96	11	16	16	16
	英語英米文学科	472	460	220	73	306	302	109	8	27	25	25
	社会学科	713	707	197	70	331	291	89	7	28	27	27
	人間科学科	521	515	194	66	331	329	76	4	34	33	30
	歴史文化学科	397	390	120	39	326	321	95	6	25	25	25
	小計	2,556	2,517	903	305	1,606	1,551	465	36	130	126	125
理工学部	物理学科	554	536	260	52	220	218	79	5	15	15	15
	生物学科	342	331	151	43	202	197	50	2	2	2	2
	機能分子化学科	626	604	236	57	201	198	71	2	23	23	23
	小計	1,522	1,471	647	152	623	613	200	9	40	40	40
経済学部	2,267	2,221	530	160	1,326	1,315	401	32	210	210	193	
法学部	1,905	1,878	609	216	1,182	1,174	414	37	147	147	145	
経営学部	1,952	1,918	552	210	1,167	1,160	330	30	210	208	185	
知能情報学部	677	666	247	89	432	428	124	8	40	40	39	
マネジメント創造学部	612	602	203	79	302	301	92	4	308	304	120	
フロンティアサイエンス学部	266	258	92	25	220	216	96	10	3	3	3	
合計	11,757	11,531	3,783	1,236	6,858	6,758	2,122	166	1,088	1,078	850	

※その他の入試とは、マネジメント創造学部公募制推薦入学試験、AO入学試験、スポーツ能力に優れた者の推薦入学試験、経営学部高等学校商業科推薦入学試験、理工学部高等学校工業科推薦入学試験、指定校推薦入学、系列校推薦入学、協定校推薦入学、帰国子女入学試験、社会人入学試験。

大学院(修士課程)

研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
人文科学	日本語日本文学専攻	3	3	2	2
	英語英米文学専攻	4	4	4	3
	応用社会学専攻	3	3	2	1
	人間科学専攻	32	27	14	11
	小計	42	37	22	17
自然科学	物理学専攻	21	21	17	14
	化学専攻	8	8	8	8
	生物学専攻	13	13	13	13
	知能情報学専攻	9	9	8	7
	小計	51	51	46	42
社会科学	経済学専攻	8	6	5	3
	経営学専攻	2	1	0	0
	小計	10	7	5	3
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	21	21	12	12
合計	124	116	85	74	

修士課程：一般入学試験、社会人入学試験、AO入学試験、外国人留学生入学試験、学内推薦入学試験、学内選考入学試験

大学院(博士後期課程)

研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
人文科学	日本語日本文学専攻	1	1	0	0
	英語英米文学専攻	1	1	1	1
	応用社会学専攻	0	0	0	0
	人間科学専攻	2	2	1	1
	小計	4	4	2	2
自然科学	物理学専攻	1	1	1	1
	生命・機能科学専攻	1	1	1	1
	知能情報学専攻	2	2	2	2
	小計	4	4	4	4
社会科学	経営学専攻	3	3	3	3
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	0	0	0	0
合計	11	11	9	9	

博士後期課程：一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験

大学院(専門職学位課程)

専攻	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
法科大学院(法学研究科法務専攻)	107	88	59	16

法科大学院：一般入学試験、未修者特別選抜

高等学校

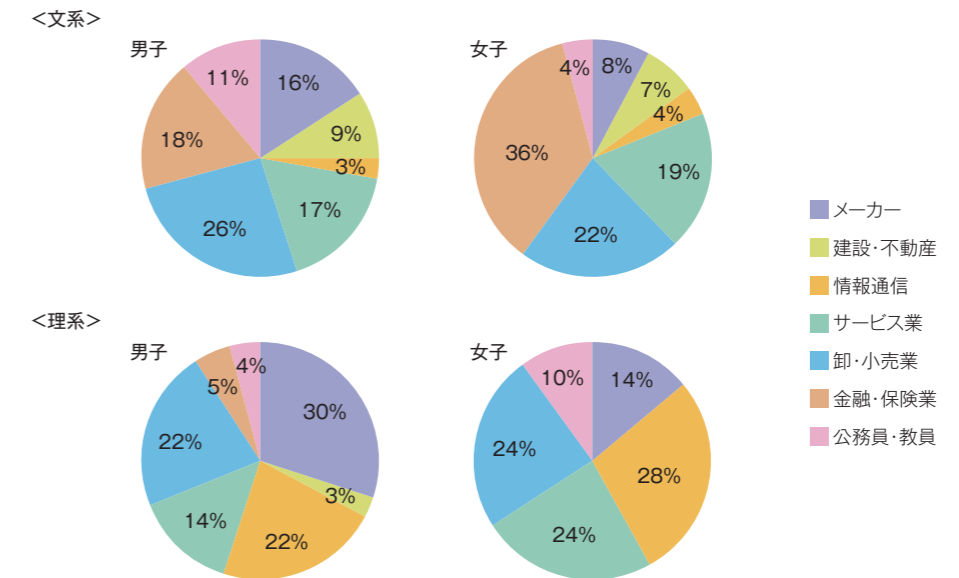
募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
普通・文理コース	34	34	26	25	1.3
普通・文理コース併願(上記を含む)	(4)	(4)	(2)	(1)	

中学校

募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
I期午前入試	158	155	112	91	1.4
I期午後入試	262	258	151	36	1.7
II期入試	276	141	79	19	1.8
III期入試	134	62	19	5	3.3
甲南小学校	24	24	24	24	—
合計	854	640	385	175	—

I 大学(学部学生)の就職状況

業種別就職状況



規模別就職状況

従業員数	文系		理系		全体
	男性	女性	男性	女性	
3,000人以上	19%	31%	14%	17%	23%
1,000人以上	25%	20%	19%	22%	22%
500人以上	22%	17%	23%	9%	20%
500人未満	34%	32%	44%	52%	35%

主な就職先

男性

就職先
積水ハウス株式会社
株式会社ブルボン
コクヨ株式会社
大塚製薬株式会社
タイガー魔法瓶株式会社
日本通運株式会社
株式会社三越伊勢丹
三菱食品株式会社
株式会社三井住友銀行
株式会社みなと銀行
神戸市役所

女性

就職先
株式会社資生堂
株式会社ロック・フィールド
西日本電信電話株式会社
全日本空輸株式会社
双日株式会社
UCC上島珈琲株式会社
株式会社三井住友銀行
株式会社三菱東京UFJ銀行
東京海上日動火災保険株式会社
大阪労働局
兵庫県教育委員会

Ⅲ 法人の概要

Ⅰ学生・生徒数(平成26年5月1日現在)

大学

学部	入学定員	編入定員	収容定員	実員
文学部	400	10	1,620	1,929
理工学部	155	—	620	702
経済学部	350	—	1,400	1,633
法学部	350	—	1,400	1,668
経営学部	345	—	1,380	1,641
知能情報学部	120	—	480	535
マネジメント創造学部	180	—	720	772
フロンティアサイエンス学部	35	—	140	158
合計	1,935	10	7,760	9,038

高等学校・中学校

学校	入学定員	収容定員	実員
高等学校	200	600	576
中学校	175	525	525

大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	実員	課程	入学定員	収容定員	実員
人文科学研究科	修士	26	52	34	博士後期	10	30	17
自然科学研究科	修士	35	70	80	博士後期	8	24	16
社会科学研究科	修士	20	40	19	博士後期	3	9	5
	専門職	—	30	12	—	—	—	—
フロンティアサイエンス研究科	修士	5	10	28	博士後期	1	3	3
合計		116	202	173		22	66	41

専門職大学院

研究科	入学定員	収容定員	実員
法学研究科	26	126	48
ビジネス研究科	—	30	1
合計	50	180	49

Ⅱ卒業生累計数(平成27年3月31日現在)

7年制高等学校	871
新制高等学校	11,321

学部	96,483
大学院(修士)	2,317
大学院(博士)	92
専門職大学院	575

Ⅲ専任教職員数(平成26年5月1日現在)

大学・大学院・センター・研究所

	文学部	理工学部	経済学部	法学部	経営学部	知能情報学部	創造マネジメント学部	フロンティアサイエンス学部	スポーツ・健康科学研究センター	国際言語文化センター	情報教育研究センター	国際交流センター	教職教育センター	先端生命工学研究所	法科大学院	会計専門職専攻	学生相談室	学長直属	合計
教授	41	22	21	17	22	11	8	8	3	8	1	0	2	1	15	8	1	0	189
准教授	9	10	4	5	2	8	7	1	3	5	0	1	0	0	2	1	0	0	58
講師	1	3	0	1	0	0	10	4	1	7	1	0	0	2	0	0	0	0	30
助教	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4
合計	51	36	25	23	24	19	25	14	7	20	2	1	2	5	17	9	1	0	281

※実務家教員を含む。

高等学校・中学校

教諭	契約	養護教諭	司書教諭	合計
53	3	1	1	58

職員

専任	嘱託	契約	合計
156	44	14	214

Ⅳ事務組織図(平成27年3月31日現在)

学 園	経営企画室	
	スポーツ強化支援室	
	総務部	総務課 人事課
	財務部	
	管財部	
	情報システム室	
	広報部	広報課 甲友課
	学園振興募金室	
	ネットワークキャンパス東京事務所	
	監査部	
		大学企画室
		大学事務部
		教務部
		学生部
		キャリアセンター事務室
		図書館・サイバーライブラリ事務室
		入試事務室
		情報教育研究センター事務室
		法科大学院事務室
		会計専門職専攻事務室
大 学	文学部事務室	
	理工学部・知能情報学部事務室	
	経済・法・経営学部合同事務室	
	西宮キャンパス事務室	
	ポートアイランドキャンパス事務室	
	国際言語文化センター・広域副専攻センター事務室	
	スポーツ・健康科学教育研究センター事務室	
	国際交流センター事務室	
	教職教育センター事務室	
	カウンセリングセンター・人間科学研究所事務室	
	フロンティア研究推進機構事務室	
高 等 学 校 ・ 中 学 校	高等学校・中学校事務室	